

Solan Dream Climbers

～夢に向かって一歩ずつ～

考えるためには、感じなきゃ

あっという間の日々が過ぎ、もうすでに4年生の1週目が終わろうとしています。2日目から、子ども達は教科学習に励みました。新しい教室で、新しい先生達と過ごす授業にワクワクでいっぱいです。理科の授業では、iPadをもって、学校で見つけた春を写真で撮影しました。桜など植物の春を見つける子どもいれば、中には「先生、写真撮っていいですか？」となぜか教師の写真を撮る子ども。「新しい先生に変わったから、春らし



いと感じたのかな？」と思って聞いてみると、「だって、春で温かくなったのがわかりやすいのが、半袖なんだもん。」と一言。なるほど、教師ではなく半袖の姿を撮りたかったのですね。これはまさしく「気温の変化」と関係していて、四年生の理科でも取り扱っていく内容です。さまざまな教科で共通しますが、考えるためにはまず感じる事が大切です。今年の理科は、感じることをより大切にし、「おや？あれ？どうして？」を大切にした授業設計を心がけていこうと思います。

比べるのは、昨日の自分

今週は、漢字と算数の3年生復習テストを行いました。テストは知識の定着をはかる有効な方法の1つです。ただ、学び手の全てを測れる万能なものではありません。なぜなら、テストには作り手のねらいがあり、そのねらいに反するものは評価されない特徴があるからです。けれど、結果が数字でわかりやすく現れるから、高い点が取れたらうれしくなります。逆に低い点を取れば嫌な気もするし、友達と自分を比べて一喜一憂もしやすいです。



便利な一方で、注意すべき側面があるからこそ、教師は、なぜテストをするのか理由を子供にわかる形で説明する必要があると考えています。今回、子ども達には、「友達と優劣をつけるのではなく今の自分の何が良くて何を伸ばす必要があるのかはっきりさせるためにやるこ



と、テストの点数はあなたの価値を決めるものじゃない。」ということを伝えました。今回のテスト結果は子ども達に丁寧にフィードバックし、今後の彼らの学びに向かう姿勢や教師の支援方法として有効に役立てていこうと思います。そして、学びに向かう理由を、ただ「やれと言われたか

ら」ではなく、「やったほうがいいから」と自分から必要性を見出せるような支援を、教員一同試行錯誤して参ります。